

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	吉川市立吉川小学校								
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	3	3	3	3	3	3	20	26
児童数	96	98	96	88	109	91	7	585	

研究の概要

1. 研究主題

自ら学び自ら考える力の育成

2. 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

- ・ 1, 2年生 - 生活科
人や地域とのかかわり、体験的な学習活動を通して、学習することのたのしさを味わったり学ぶ意欲を高めたりする研究に取り組んでいる。
- ・ 3, 4年生 - 算数科
算数の学力差が大きくなるとともに算数嫌いが増える学年である。個に応じた指導のあり方を工夫し基礎基本の定着を図る研究に取り組んでいる。
- ・ 5, 6年生 - 総合的な学習の時間
問題解決的な学習過程を基本として、自らの課題を自ら解決していく調べ方や学び方を身に付けるための評価支援のあり方についての研究に取り組んでいる。

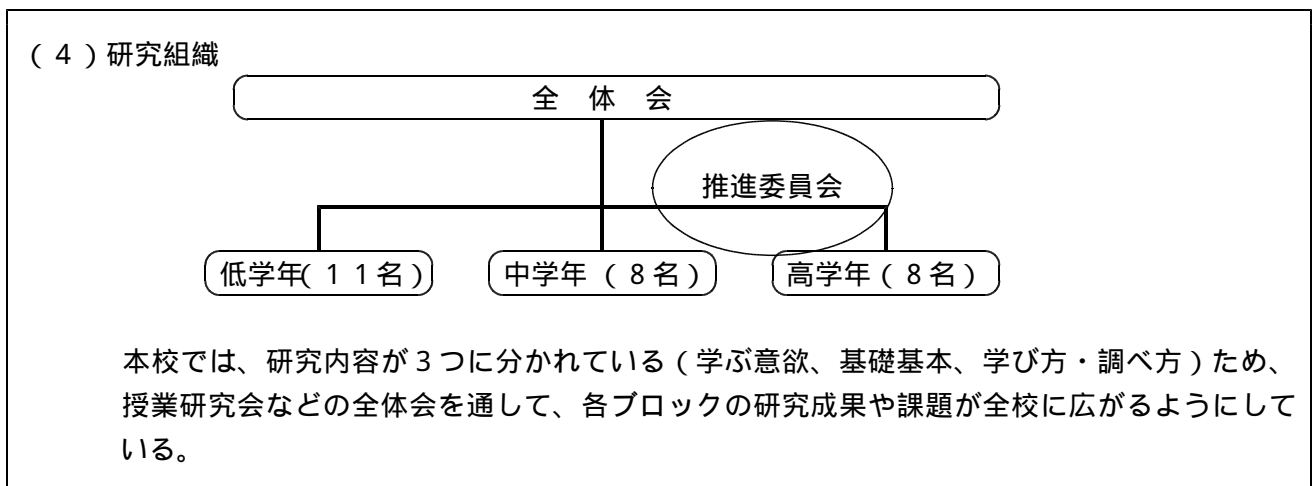
(2) 年次ごとの計画

平成15年度	研究の主眼	「学力＝自ら学び自ら考える力」と位置づけ、それを支える資質能力を学ぶ意欲、基礎基本、学び方・調べ方とした。学ぶ意欲を高め、基礎基本を定着させ、学び方・調べ方を身に付けるための授業実践を中心とした研究を進めてきた。			
	研究の経過	1学期 学力についての共通理解を図るための全体研修会 2学期 おもに授業実践を中心とした授業研究会（その概要は以下の通り） 3学期 実践を通しての成果と課題を明らかにするための実践発表会			
		回	日時	教科等	単元
	1	10月23日	生活 1, 2年	あそびにいこうよ わたしの町大すき	1, 2年生の合同学習（1, 2年のペアやグループでの活動）、デイサービスとの連携（高齢者の方とのふれあい）を中心に学習活動や学習の場を工夫し学習意欲を高めていく。
	2	11月20日	算数4年	わり算のひっ算を 考えよう	均等割少人数指導によって児童の思考の流れやつまづきを把握したあと、個に応じた習熟度別少人数指

				導を実施する。
3	12月 4日	総合5年	みんな幸せパート	様々な間接的・直接的体験活動を展開して「考える・話し合う・調べる」などの学び方・調べ方を学習する。また、評価と一体となった具体的な支援の仕方を追究していく。
4	2月 3日	算数3年	かけ算のひっ算を考えよう	コース別学習を展開する。その際、自らの変容がわかるように、そしてコース選択の資料となるように自己評価カードを作成し活用する。
5	2月12日	総合6年	自分探しの旅へ	学習者主体の学習展開を行い、学習内容に適した学び方・調べ方を身につけさせるための評価の方法と支援のあり方を研究していく。

平成16年度	研究の主眼	15年度の実践を踏まえ、「学力向上のための全体構想」を策定しそれに基づいた授業実践を積み上げるとともに、本校が取り組んできた研究の成果と課題を明らかにして普及また啓発活動に取り組む。
	研究の見通し	1学期 「学力向上のための全体構想」の共通理解のための全体研修会 2学期 研究発表などを通しての普及並びに啓発活動 3学期 研究成果と今後の課題の確認

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究の成果及び今後の課題

1. 研究の成果

- ・本校はサービス（老人福祉施設）が併設されているので、生活科や総合的な学習の時間を通して交流を図るようにしており、ふれあいを通して児童の学ぶ意欲が高まりつつある。また、生活科では指導内容の見直しを図り、1, 2年生が関わりを持ちながら学習を進めてきた。「いっしょに学ぶ」「助け合って学ぶ」という楽しさを味わわせることができた。
- ・個に応じた指導によって「算数がわかるようになった」「自分の力で解こうとする」などの学習意欲の高まりがみられた。また、こうした意欲が基礎基本の定着につながっている。

- 各教科や総合的な学習の時間で問題解決型の学習過程を繰り返し行うことで個に応じた学び方・調べ方が習得されつつある。そのための評価支援を積み重ねていきたい。

2. 今後の課題

- 生活科、算数科、総合的な学習の時間の指導計画は実践を通して絶えず見直しと改善を図る必要がある。
- 個に応じた指導のためには教師一人一人の指導力の向上が大切である。そして、個に応じた指導を積み重ね児童自らが自らの力にあったコースを選択する力(自己評価力)をつける必要がある。
- 各教科での体験的学習や問題解決の学習などの学び方を通して、総合的な学習の時間で生かすようにしていく。学び方・調べ方を通しての各教科と総合的な学習の時間の関連を図るようにする。

学力等把握のための学校としての取組

- 標準化された学力調査(算数科)の実施
16年度より2～6年生に対して、5月中旬(予定)に行う。年度当初に学力を把握し1年間の指導方針を明らかにする。
- 学習カードや学習計画表の継続的な取り組み
生活科や総合的な学習の時間では、学習カードや学習計画表(自己評価表)を継続的に活用し児童の変容を捉えるようにする。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- 平成16年11月下旬(詳細未定)に本市並びに本県東部地区を対象に研究発表会を開催する予定
- 学校だより等の広報を活用し、地域や家庭に対して確かな学力についての啓発活動を行うとともに、学力向上のための理解と協力を得られるよう努める。
- 「彩の国教育週間」の学校公開、学校説明会や各種懇談会の場を活用し、本校の教育活動に対する理解と協力を得られるよう努める。
- ホームページを通して、本校の特色、学力向上フロンティア事業に関わる取り組みなどを紹介する。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

【新規校・継続校】	15年度からの新規校	14年度からの継続校	
【学校規模】	6学級以下	7～12学級	
	13～18学級	19～24学級	
	25学級以上		
【指導体制】	少人数指導	T・Tによる指導	
	一部教科担任制	その他	
【研究教科】	国語	社会	算数
	生活	音楽	図画工作
	体育	その他	理科
【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】		有	無